

CASBEE新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	桑原板金工業所 新築工事	
建設地	新潟県新潟市江南区新野中園崎3801-3802,3803,3804,3805の角,3807の角,3808-2の角,3808の角	
用途地域	工業専用地域、法22条地域	
建物用途	事務所,工場,	
竣工年	2025年5月 予定	
敷地面積	9,917.53 m ²	
建築面積	2,964.34 m ²	
延床面積	3,312.95 m ²	
階数	地上2F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2024年7月25日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{44.2}{38.5} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に 使い続けるために	平均スコア 2.8		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	1.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産 を守るために	平均スコア 2.9		維持管理	Q2.1.3	4.5
			設備の更新性	Q2.3.3	3.0
			耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのた めに	平均スコア 2.0		信頼性	Q2.2.4	2.8
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 4.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づく りのために	平均スコア 3.3		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代 に引き継ぐために	平均スコア 1.5		節水	LR2.1.1	3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	3.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	4.0
7. 新潟のまちらしさへの取組み 地域の個性や魅力を活か したまちづくりのために	平均スコア 3.0		生物環境の保全と創出	Q3.1	1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	2.0
			まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

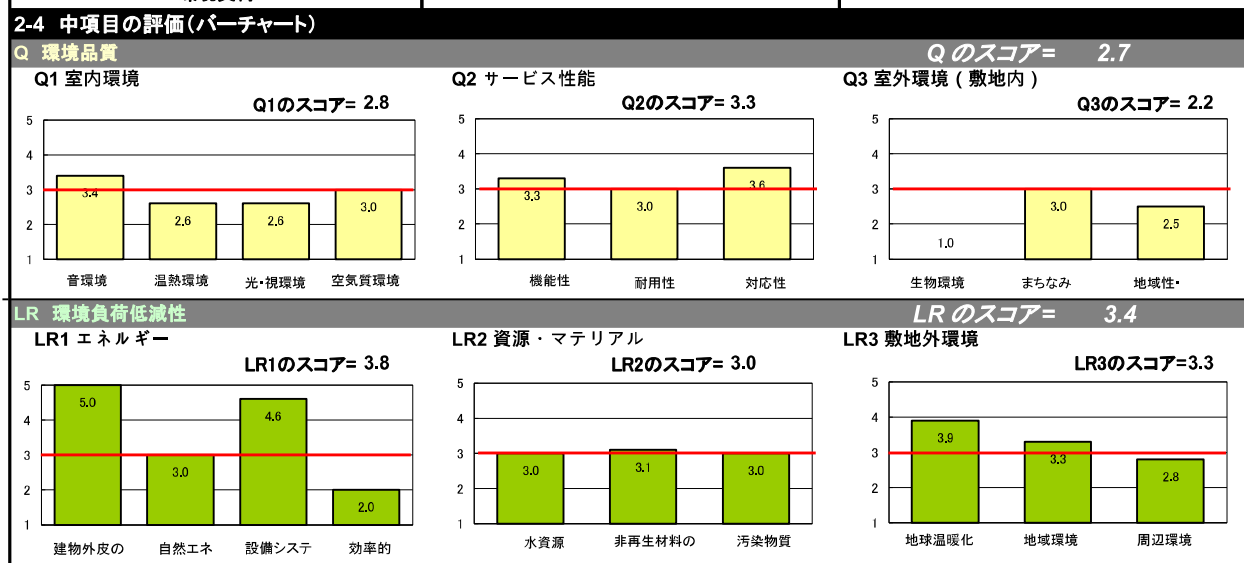
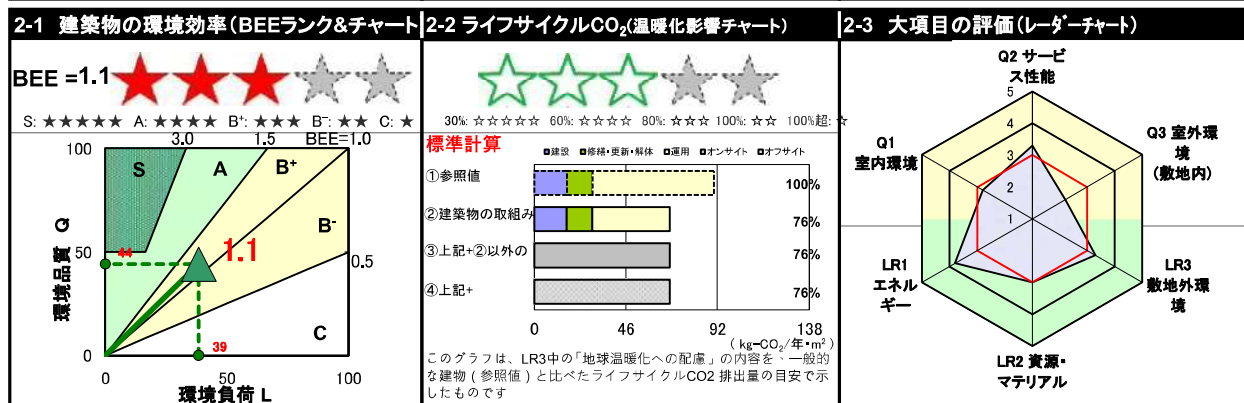
- 長寿命化の取組み: 維持管理しやすい建材を使用。
- 自然エネルギー利用の取組み: 外皮の断熱性能を向上させた。
- 資源循環の取組み: 構造材と仕上げ材の分離可能な計画。
- 水と緑を活かす取組み: 道路側に植樹スペースを計画。



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版|使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	桑原板金工業所 新築工事	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市江南区新井(東経139°13'00" 北緯36°53'00" 2025年5月30日現在)	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	48 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年5月 予定	評価の実施日	2024年7月25日
敷地面積	9,918 m ²	作成者	小山晋哉
建築面積	2,964 m ²	確認日	
延床面積	3,313 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項			その他
総合 主な執務空間をオープンスペースとし、将来的な人員増やレイアウト変更に対応できる計画とした。 工場部分は生産効率向上のため、合理的な作業空間を確保した。			—
Q1 室内環境 工場と事務所の壁には十分な遮音性能を持たせる計画とした。	Q2 サービス性能 階高を高く設定するなど空間にゆとりを持たせ、対応性・更新性を高めている。	Q3 室外環境(敷地内) 植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。 緑地を設けることにより良好な景観を形成している。	
LR1 エネルギー 空調エリアは複層ガラスを採用し、建物の省エネルギー化を図っている。 照明はLEDを採用し、高効率機器を選定している。	LR2 資源・マテリアル 節水器具を採用し、資源の保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される